

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)荒戸3丁目開発計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.2	
Q1 室内環境					0.40		-	2.9	
1 音環境				4.0	0.15	3.1	1.00	3.3	
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音		T-2以上		5.0	0.50	3.2	0.50		
1 開口部遮音性能		—		5.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能		—		-	-	1.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr-45		-	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音		—		-	-	-	-		
2 温熱環境				2.0	0.35	2.3	1.00	2.2	
2.1 室温制御		—		3.0	0.50	3.7	0.50		
1 室温		—		3.0	0.63	3.0	0.63		
2 外皮性能		「5-1断熱性能等級における」等級4を超える		3.0	0.38	5.0	0.38		
3 ゾーン別制御性		—		-	-	-	-		
2.2 湿度制御		—		1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式		—		1.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境				2.5	0.25	2.9	1.00	2.8	
3.1 昼光利用		—		4.2	0.30	1.9	0.50		
1 昼光率		スカイラウンジ 昼光率2.5%以上		5.0	0.60	2.0	0.50		
2 方位別開口		—		-	-	1.0	0.30		
3 昼光利用設備		—		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		—		2.0	0.30	4.0	0.50		
1 昼光制御		庇とカーテンの2種類を組合せて制御している		2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		—		3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		—		1.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.6	0.25	3.8	1.00	3.7	
4.1 発生源対策		—		4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建築材料を採用している。		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気		—		3.0	0.40	3.6	0.38		
1 換気量		—		3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。		-	-	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		—		3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理		—		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		—		-	-	-	-		
2 喫煙の制御		—		-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3	
1 機能性				3.1	0.40	3.4	1.00	3.3	
1.1 機能性・使いやすさ		—		3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		—		-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		100Mbitクラスのプロードバンドが利用可能		-	-	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画		—		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		—		3.0	0.30	1.0	0.40		
1 広さ感・景観		—		-	-	1.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		—		-	-	-	-		
3 内装計画		—		3.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理		—		3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		—		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		廃棄物のスペースを確保し、搬出も容易な計画とした		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.4	0.30	-	-	3.4	
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.4	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		免震装置が導入されている。		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		—		3.5	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策等級3取得		5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		フローリング20年		4.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な上位3種類の2種以上にBを使用し、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		—		3.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		配管の系統の区分や受水槽の水道蛇口の設置など災害時に備えられている。		4.0	0.20	-	-		
3 電気設備		—		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		—		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		光ケーブルを使用し通信手段の多様化を図り災害時の配線の信頼性が高められている		4.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性		3.0	0.30	3.4	1.00	3.2
	3.1 空間のゆとり			-	3.8	0.50	
	1 階高のゆとり	階高は3.0m以上である		-	5.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	-		-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり	-		-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.0	1.00		-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.5
1	生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30		-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	外観パースを作成し植栽計画を含め良好な景観の形成に配慮して	4.0	0.40		-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.5	0.30		-	3.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	緑地を効果的に設けることにより敷地内の温熱環境の向上に努めている。	4.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.8
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	適切な断熱材を施し、外皮の熱負荷抑制に努めた	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用	-	2.0	0.10		-	2.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] ≤ 0.85	5.0	0.50		-	5.0
4	効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価			-		-	
	4.1 モニタリング	-		-		-	
	4.2 運用管理体制	-		-		-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50		-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.4
1	水資源保護		3.0	0.20		-	3.0
	1.1 節水	-	3.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-		-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.6	0.60		-	3.6
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	場所打ち杭コンクリートに高炉セメントB種を使用している。	5.0	0.20		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+木下地+仕上材により分別が容易としている。	5.0	0.20		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.4	0.20		-	3.4
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.6	0.70		-	
	1 消火剤	不活性ガス消火設備を使用している。	4.0	0.33		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用	4.0	0.33		-	
	3 冷媒	-	3.0	0.33		-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.6
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率を抑制し、地球温暖化に配慮した。	4.1	0.33		-	4.1
2	地域環境への配慮		3.5	0.33		-	3.5
	2.1 大気汚染防止	オール電化住宅により大気汚染物質を全く発生しない。	5.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制	適切な量の駐輪・駐車計画がされており、導入路の位置や形状も配慮されている。	5.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33		-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音	-	3.0	1.00		-	
	2 振動	-	-	-		-	
	3 悪臭	-	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制	-		-		-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明なし	4.0	0.70		-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30		-	